

**製品名: PFK-2 liv ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab16013**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	58kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PFKFB1
別名	PFKFB1; F6PK; PFRX; 6-phosphofructo-2-kinase/fructose-2,6-bisphosphatase 1; 6PF-2-K/Fru-2,6-P2ase 1; PFK/FBPase 1; 6PF-2-K/Fru-2,6-P2ase liver isozyme
遺伝子 ID	5207.0
SwissProt ID	P16118
免疫原	抗血清はヒト PFKFB1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 406-455

**背景**

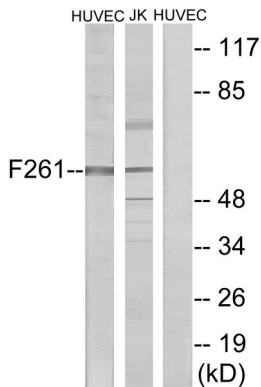
この遺伝子は、二機能性 6-ホスホフルクト-2-キナーゼ: フルクトース-2,6-ビスホスファターゼ酵素ファミリーの一員をコードしてい

ます。この酵素はホモ二量体を形成し、独立した触媒ドメインを用いてフルクトース-2,6-二リン酸の合成と分解の両方を触媒します。フルクトース-2,6-二リン酸は、解糖経路の活性化因子であり、糖新生経路の阻害因子です。したがって、この酵素の活性を介してフルクトース-2,6-二リン酸レベルを調節することで、グルコース恒常性が制御されていると考えられています。この遺伝子には、複数の選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが見つっています。 [RefSeq 提供、2012年11月],触媒活性: ATP + D-フルクトース 6-リン酸 = ADP +  $\beta$ -D-フルクトース 2,6-ビスリン酸。触媒活性:  $\beta$ -D-フルクトース 2,6-ビスリン酸 + H<sub>2</sub>O = D-フルクトース 6-リン酸 + リン酸。酵素制御: リン酸化はキナーゼ活性を阻害する。機能: フルクトース 2,6-ビスリン酸の合成と分解。類似性: C末端領域に存在。ホスホグリセリン酸ムターゼファミリーに属する。サブユニット: ホモ二量体。組織特異性: 肝臓。

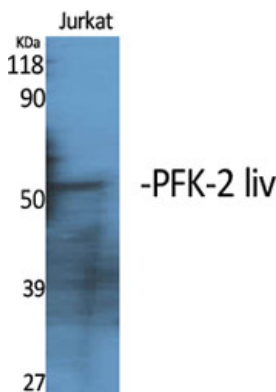
## 研究分野

フルクトースおよびマンノースの代謝;

## 画像データ



PFKFB1 抗体を用いた HUVEC 細胞および Jurkat 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



PFK-2 liv ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析

PFK-2 liv ポリクローナル抗体を用いた Jurkat 細胞のウェスタンブロット解析

